

## 第 24 期物理学委員会（第 10 回）議事録

H30 年 10 月 19 日（金）13:00～15:00

日本学術会議 会議室 5A(2)

出席者：梶田隆章（委員長），松尾由賀利（副委員長），野尻美保子（幹事），山崎典子（幹事），伊藤公孝（skype），延輿佳子，岡眞，川上則雄，川村光，河野公俊（skype），駒宮幸男，須藤靖，瀧川仁（skype），田村裕和，田島節子，深川美里（skype），村上洋一，山田亨

議事：

### 1. 前回議事録確認（資料 1）

第 3 回，第 8 回の議事録が回覧，承認された。

### 2. 第 3 部会報告（梶田委員長）

資料 2 に基づき，以下の点について説明があった。

委員会および分科会における提言の審議の手順について。

学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part2(企画案)」  
科学者委員会学術体制分科会での議論の紹介。

### 3. 各分科会の活動報告（資料 2）

#### 3.1 物性物理学・一般物理学分科会

川村氏より資料 3-1 に基づき説明があった。マスタープランについてのシンポジウムを行う予定である。

#### 3.2 素粒子物理学・原子核物理学分科会

田村氏より資料 3-2 に基づき説明があった。主にマスタープランについての議論を行なっている。マスタープランとロードマップの関係について，など分科会メンバーの理解を得つつすすめている。2 月中旬にシンポジウムを予定している。発表資料等を学術会議の記録として残すことを検討している。

#### 3.3 天文学・宇宙物理学分科会

山崎氏より資料 3-3 に基づき説明があった。

#### 3.4 IAU 分科会

山崎氏より資料 3-4 に基づき説明があった。IAU で提案されているハップルの法則を「ハップル - ルメートルの法則」と呼ぶことを推奨する決議がでた場合，教育分野での混乱を避けるための提言を検討してい

る。

### 3.5 IUPAP 分科会

野尻氏より資料 3-5 に基づき説明があった。新しい SI 単位系ではプランク定数に基づいて質量を決める事になる。これに関するシンポジウムを行なう。

### 3.6 物理教育研究分科会

岡氏より資料 3-6 に基づき説明があった。村田氏、覧具氏は特任連携会員として参加頂くことになった。委員の中での知識の共有を図るため、専門家を参考人として招聘するなどしていく予定である。

### 3.7 国際周期表記念事業検討分科会

野尻氏より資料 3-7 に基づき説明があった。

## 4. マスター プランの現状報告と、審査にあたっての意見交換

梶田氏より、科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会での議論等の現状についての説明があった。なお、文科省学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会より、大規模学術フロンティア促進事業のうち、10 年の期限が近々来ることが想定されている大型プロジェクトで後継計画を提案予定の課題については、マスター プランで新規計画として提案のうえ、学術会議として審議をしてほしい旨依頼されていることが紹介された。現在大規模学術フロンティア促進事業に掲載されているもの多くは活動継続のための新規提案が必要であることを考えると、重点大型計画選定のためのヒアリング課題選定にあたって、その数を機械的に定数で絞るのではなく、絶対評価と相対評価を合わせなどにより柔軟に選定されるべきという意見を物理学委員会から研究計画・研究資金検討分科会に意見としてあげはどうかとの意見があり、出席委員の了承を得た。

## 5. 国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討分科会

田村氏より、説明があった。HIGGS factory としての実施をするという、変更提案に対して、5 年前の審査同様、学術会議での意見を求められている。分科会の審議は集中的に行われており、11 月中旬くらいに意見をまとめるかという早いペースで議論を進めている。

## 6. 第三部理工系ジェンダー・ダイバーシティ分科会

野尻氏より説明があった。なぜ日本の理工分野に女子学生が少ないか、などのバイアス等について議論を行なった。

出席委員より、科学技術分野での文部科学大臣表彰では、通称使用ができず戸籍名での受賞者発表となるため、受賞者が履歴に書いても検索しにくい、など弊害がでている事例が紹介された。学協会とも協力して意見をあげていきたいが、委員会メンバーが審査委員などをする際に戸籍名使用が不都合と思われる場合などには意見を述べていただけるとよいという意見があった。また韓国の物理分野での女性比率は増えているのであれば、参考にしたい、という質問があった。野尻氏より、他の国から比べればまだ非常に少ないが、日本よりは上昇率は高い、日本の遅れが目立っているという回答があった。

#### 7. 公開シンポジウム「基礎科学研究の意義と社会」（資料 6）

野尻氏より、資料に基づき説明があった。皆さんの参加を呼びかけたい。

以上